

トランスジェンダーの概念について

- Q1 トランスジェンダーとはなんですか
- Q2 トランスジェンダーと同性愛はどう違いますか
- Q3 トランスジェンダーはどれくらいの割合で存在しますか
- Q4 戸籍を変更しているトランスジェンダーの方はどれくらいいますか
- Q5 性同一性障害とトランスジェンダーはどちらがいますか
- Q6 性同一性障害は病気ではなくなりますか
- Q7 トランスジェンダーの人たちは脱病理化を求めているのですか
- Q8 トランスジェンダーになる要因はなんですか
- Q9 何歳ぐらいからトランスジェンダーと気づきますか
- Q10 トランスジェンダー にはどのような人が含まれますか
- Q11 国連のトランスジェンダーの定義には異性装が含むのですか
- Q12 トランスジェンダーは興奮するために女装をする男性も含まれますか

トランスジェンダーの生き方について

- Q13 トランスジェンダーはどのように性別を変えますか
- Q14 性別を変えることは不幸な生き方ではないでしょうか
- Q15 トランス女性はお化粧やスカートが好きな男として生きればよいのではないのでしょうか
- Q16 手術をしてペニスを除去してから女性と認めるべきではないでしょうか
- Q17 男とか女とか関係なく、その人らしく生きればよいのでは。どうして性別を変えようとするのでしょうか

性別で区分されたスペースに関して

- Q18 トランスジェンダーはどのトイレを使うのでしょうか
- Q19 トランスジェンダーは、だれでもトイレをつかえばよいのではないのでしょうか
- Q20 戸籍とは異なる性別のトイレや更衣室を使うのは犯罪ではないのでしょうか
- Q21 トイレや更衣室などは、戸籍の性別に準じて使用を認めるべきでは
- Q22 公衆浴場はトランスジェンダーをどう扱っていますか
- Q23 トランスジェンダーの権利が認められると性犯罪が増えるのではないですか
- Q24 刑務所など収容施設におけるトランスジェンダーの扱いはどうなるのか
- Q25 トランスジェンダーの権利擁護をする人は性暴力に無関心ではないのでしょうか

トランスジェンダーの治療に関して

- Q26 子どもに不可逆的な治療を行うことは不適切ではないのでしょうか
- Q27 性別を変える治療をして後悔する人が多いと聞きましたが本当でしょうか
- Q28 製薬会社が儲けるためにトランスジェンダーを増やそうとしているのは本当でしょうか

Q1 トランスジェンダーとはなんですか

トランスジェンダーは出生時に割り当てられた性別とは異なる性自認(ジェンダー・アイデンティティ=自己の属する性別についての認識に関する同一性の有無または程度)を持つ人を指します。性自認は個人の重要なアイデンティティであり、単なる自称とは異なります。性自認は性同一性と訳されることもあります。

Q2 トランスジェンダーと同性愛はどう違いますか

同性愛は、性的指向(恋愛や性的関心をもつ相手の性別)が同性に向かうことを指します。性自認と性的指向は、独立した別の概念です。なお、トランスジェンダーの性的指向はさまざまです。トランス女性で、男性を恋愛対象とする方もいれば、女性を恋愛対象とする方もいます。トランス男性の場合も同様です。

Q3 トランスジェンダーはどれくらいの割合で存在しますか

諸説あります。米国のUCLAによる2016年の調査では人口の0.6%という推定値がありました。国内では大阪府が2019年に実施した「大阪府民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」で0.7%、埼玉県が2020年に実施した「LGBTQ実態調査」で0.5%というデータがあります。

Q4 戸籍を変更しているトランスジェンダーの方はどれくらいいますか

2004年施行された性同一性障害特例法に基づき戸籍上の性別を変更した人は、19年までの15年間で計9625人にわたります。なお日本精神神経学会の研究グループによれば15年末までに性同一性障害の診断を受けた人が延べ2万2435人にのぼるため、性同一性障害の診断をもつトランスジェンダーの半数以上が戸籍の性別変更に至っていない現状があります。

Q5 性同一性障害とトランスジェンダーはどちらがいますか

性同一性障害は疾患名ですが、トランスジェンダーは医療の枠組みによらず当事者が自らをさすための用語です。我が国ではホルモン療法や手術療法などの性別移行に関わる医療行為を受ける際には二名の医師により性同一性障害の診断を得ることが日本精神神経学会のガイドライン上もとめられています。ガイドライン外で治療を受けたり、そもそも性別移行に関わる医療行為をしていなかったりする場合にはトランスジェンダーでありつつ性同一性障害の診断を有さないことがあります。

Q6 性同一性障害は病気ではなくなりますか

2018年に改訂された国際疾病分類の第11回改訂版(ICD-11)では性同一性障害は精神疾患ではなく性保健健康関連の病態(仮訳)に分類され、名称が性別不合(仮訳)に改められました。名称や分類は変わりますが、性別移行に関わる医療行為を必要とする人を対象に、今後も疾患としての運用がなされる予定です。

Q7 トランスジェンダーの人たちは脱病理化を求めているのですか？

国際疾病分類の第10回改訂版(ICD-10)が1990年に改訂されるまで同性愛は精神疾患とみなされていました。性的指向の多様性が病理とはみなされなくなったように、性自認のあり方も病理とみなすべきではないとの議論があります。同性愛の扱いが病理から人権課

題と変わっていった歴史になぞらえ「病理モデルから人権モデル」という用語が使われることもあります。

脱病理化のねらいは疾患とみなされることによるスティグマ(偏見)の解消が目的であり、単に医療の対象としないこと＝脱医療化とは異なります。性別移行のためのホルモン療法や手術療法は今後も当事者にとって必要です。スティグマの解消とあわせて、必要としている人が性別移行にかかわる医療を受けられるよう医療資源の確保を並行して行うことが当事者の命と健康のために重要です。

Q8 トランスジェンダーになる要因はなんですか

はっきりした要因は分かっていません。胎児期の脳の性分化に関係があると考えられる研究者もいますが、現段階では明確な根拠として断定できる段階にありません。

Q9 何歳ぐらいからトランスジェンダーと気づきますか

個人差があります。岡山大学ジェンダークリニックを受診した人では全体の56%が小学校入学以前から性別違和を訴えていました。幼くして違和感を持つことは決して珍しくないと言えますが、思春期以降に性別違和を自覚する場合があります。性別違和を抱いていても実際にそのことを言語化し、性別移行して生活することを希望するまでには長い時間がかかることもあります。

Q10 トランスジェンダーにはどのような人が含まれますか

出生時に男性とわりあてられ女性の性自認を持つトランス女性、出生時に女性とわりあてられ男性の性自認を持つトランス男性、男女いずれかというふうにあてはまらない性自認を持つXジェンダー(あるいはノンバイナリー)の人々などが含まれます。

Q11 国連のトランスジェンダーの定義には異性装が含むのですか

国連が行なっている「Free&Equal」キャンペーンではトランスジェンダーの説明として「ジェンダー規範から外れる外見や特徴を持つ人たちのあらわすアンブレラターム」があげられ、その中には異性装をする人が含まれています。インドや北米、ポリネシア諸島などの文化圏では伝統的に男女二元的ではない性別のあり方が受容されています。これらの文化的多様性を包摂することを意図した定義となっています。性表現という言葉が採用されているのも同様の背景によります。

Q12 トランスジェンダーは興奮するために女装をする男性も含みますか

含みません。性的興奮を得るために特定の衣服を身につけるのは、性嗜好に関わる事柄で、トランスジェンダーとは性自認に関する事柄です。性嗜好と性自認は別の事柄であるにもかかわらず、トランスジェンダーの人々が自分の性自認に沿った服装をすることについて「性的興奮を得るためにするにちがいない」「だますためだ」などの偏見を持たれることがあり、当事者の苦悩につながっています。

Q13 トランスジェンダーはどのように性別を変えますか

身体的な性別移行には男性化や女性化をもたらすホルモン療法、手術療法などがあります。その他に、名前や服装、髪型、周囲からの扱われ方を変えるなどの社会的な性別移行

があります。社会的な性別移行ができれば身体的治療をしなくてもよい当事者もいれば、身体的治療が重要である当事者もいて、個人差があります

Q14 性別を変えることは不幸な生き方ではないでしょうか

性自認は個人の意思で選択・変更することはできません。トランスジェンダーの人にとっては、性自認にもとづいて生きるとはストレスが減り、豊かな人間関係を築き直し、はじめて自分の人生を生きているという実感が味わえるなど、肯定的な側面があります。

Q15 トランス女性はお化粧やスカートが好きな男として生きればよいのではないのでしょうか

性自認は個人の重要なアイデンティティであり、単にどのような服装を好むのかとは異なります。トランス女性がみんなお化粧やスカートなど、いわゆる典型的な女性の装いを好むとは限らず、トランス男性がみんな子どもの頃からサッカーや外遊びを好んでいるわけでもありません(メディアなどでそのように描かれることがあります)。ひとくちに男性や女性といってもさまざまであるように、トランス女性やトランス男性の服装の好みもさまざまです。

Q16 手術をしてペニスを除去してから女性と認めるべきではないのでしょうか

日本精神神経学会の「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン」では、身体的治療を希望する者は、治療を行う前に移行先の性別での生活を行ってみる(実生活経験=RLEを行う)ことが推奨されています。トランス女性であれば女性として、トランス男性であれば男性として生活がある程度できるようになってから本人が希望する場合に性別適合手術を受けるといことです。手術を受けないと移行先の性別として認めないというのでは、そもそもガイドラインとも矛盾しますし、だれも性別移行できなくなってしまうです。

Q17 男とか女とか関係なく、その人らしく生きればよいのでは。どうして性別を変えようとするのでしょうか

私たちの社会は、あらゆる場面で性別が問われ、どの性別と認識されるかによって人間関係が変化するものです。「男も女も関係ない」と言い切ってしまうのには、性別はあまりに個人を構成する要素として大きな部分を占めています。「その人らしく生きる」には、その人の性自認がきちんと尊重されていることや、身体違和が緩和されていることなどが重要です。

Q18 トランスジェンダーはどのトイレを使うのでしょうか

個人によって異なります。多くの当事者は性別移行の状況にあわせて、使用するトイレを徐々に移行します。性別移行をはじめてまもなく外見が変化していない当事者もいれば、移行先の性別ですっかり馴染んでトランスジェンダーであることを特に明かさず暮らしている当事者もいます。トランスジェンダーはこのトイレをつかうというひとつの答えがあるわけではありません。

Q19 トランスジェンダーはだれでもトイレをつかえばよいのではないのでしょうか

性別移行の初期であったり、男女別でわかれたトイレを使うことに抵抗感があつたりする場合に、だれでもトイレを使う当事者はいます。しかし、移行先の性別です馴染んでおり男女別トイレを問題なく使える当事者もいます。トランスジェンダーであることを特に明かさず暮らしている当事者も多く、このような場合にわざわざ離れたトイレを使う様に指定すること

は、望まないカミングアウトの強要やアウティングにつながりかねません。トランスジェンダーはこのトイレをつかうべきというひとつの答えがあるわけではなく、職場や学校においては状況によって合理的に判断していくことが重要です。

Q 20 戸籍とは異なる性別のトイレや更衣室を使うのは犯罪ではないでしょうか
戸籍の性別に沿ったトイレや更衣室を使うよう求める現行法はありません。現行法では管理権者の意思に反する立ち入りを行った場合に問われる建築物侵入罪がありますが、トランスジェンダーに一律に適応されるものではありません。なお盗撮や性的嫌がらせなど犯罪目的でトイレや更衣室に侵入した場合には、男女問わず処罰されます。

Q21 トイレや更衣室などは、戸籍の性別に準じて使用を認めるべきでは
性同一性障害の診断をもつトランスジェンダーの半数以上が戸籍の性別変更に至ってない現状があります(Q4参照)。戸籍とは異なる性別で日常生活を送っている当事者は多く、また移行先の性別で馴染んでおり特にトランスジェンダーであることを公表していない場合も多くあります。戸籍に準じた扱いを求めることは望まないカミングアウトの強要やアウティングにつながりかねません。

Q22 公衆浴場はトランスジェンダーをどう扱っていますか
浴場組合によっては身体の形状(陰茎を有するかどうか等)で判断しているようです。管理者の意思が最優先される場であり、また施設の性質上、合理性のある基準ではないかと思われます。個別のケースに応じて、個室スペースを案内するなどの工夫をしている浴場もあります。トランスジェンダーと公衆浴場の話題は日本のSNSでこの数年話題となっていますが、トランス女性の団体が「自分たちを性別適合手術なしで女湯にいれてくれ」と訴えているのではなく、むしろ当事者への嫌がらせ(トランスジェンダーは無理難題を押し付けるクレーマーだという印象操作)としてこの話題が持ち出されていることに注意が必要です。

Q23 トランスジェンダーの権利が認められると性犯罪が増えるのではないですか
カリフォルニア大学ロサンゼルス校が2018年に発表した米国初の大規模調査では、性自認による差別禁止をした地域、していない地域を比較したところ、トランスジェンダーが性自認によりトイレを使うことが認められても性犯罪増加にはつながっていないことが指摘されました。

Q24 海外では女性刑務所でのトランス女性によるレイプが多発していると聞きましたが本当ですか
差別禁止法がある国でも、性自認にもとづきトランス女性を必ず女性刑務所に移送するという運用にはなっていません。たとえばイギリスでは精神科医等を連ねる審査パネルがリスク等を検討し、承認された場合にのみ女性刑務所に移送することになっています。2021年秋現在、英刑務所にいるトランス女性は150人とされていますが女性刑務所にいるトランス女性は11人にすぎません。
刑務所におけるレイプとしては、イギリスでカレン・ホワイトというトランスジェンダーの性犯罪者が女性刑務所に収容され性暴力をふるう事件が起きたことが、日本でも引き合いに出されています。カレン・ホワイトは過去の犯歴を照会することを怠ったためにリスクアセスメントが正しくできなかったとして、英国法務省は謝罪し再発防止を誓っています。

Q25 トランスジェンダーの権利擁護をする人は性暴力に無関心ではないでしょうか
宝塚大の日高庸晴教授が2019年に行った調査では、トランス女性の57%、トランス男性の51.9%が性暴力被害経験を有しました。被害を受けても安心して相談できる環境が少なく、弱みにつけこまれやすいなど、トランスジェンダーにとっても性暴力被害は重要な課題です。安全性を理由としてトランスジェンダーを排除しようとする動きが国内外で増加していますが、イギリスにおけるLGBT団体によるDV/性暴力被害施設への調査では、支援者たちは安全性対策は日常的にとりくんでおり、トランスのサバイバーを受け入れた経験を肯定的にふりかえっていました。日本でも、DV/性暴力被害者支援に関わる支援者たちから「女性の安全」をトランスジェンダー排除のための大義名分としないよう声があがっています。

Q26 子どもに不可逆的な治療を行うことは不適切ではないでしょうか
15歳未満の子どもの選択肢である二次性徴抑制療法は可逆的な治療です。二次性徴抑制療法は、望まない身体変化を一時的に止めることで性別違和を持つ子どもの希死念慮や自傷行為をおさえ、成人後の自殺リスクについても大幅に低下させる可能性がある指摘されています。部分的に不可逆的な要素を含む性ホルモン療法については、日本精神神経学会によるガイドラインでは、18歳未満の者に開始する場合には2年以上ジェンダークリニックで経過を観察し特に必要を認めたものに限定することが定められています。

Q27 性別を変える治療をして後悔する人が多いと聞きましたが本当でしょうか
[イギリスの調査によれば公的保健医療制度を使って性別移行をした3,398人のうち、性別移行を後悔した人は0.47%でした。](#)このようなわずかな例を引き合いに、性別移行があたかも簡単に行われるとか、性別移行を勧める医師によって患者の自己決定が損なわれているかのように間違った議論が行われることがあります。

Q28 製薬会社が儲けるためにトランスジェンダーを増やそうとしているのは本当でしょうか
誤情報です。トランスジェンダーの人口は少なく、ホルモン製剤を使う人たちのごく一部にすぎません。このような理由からホルモン療法を保険適用にするための治験に協力する製薬会社が見つからず、むしろ当事者たちはホルモン療法をしたくても安心して続けにくい脆弱な状況に置かれています。